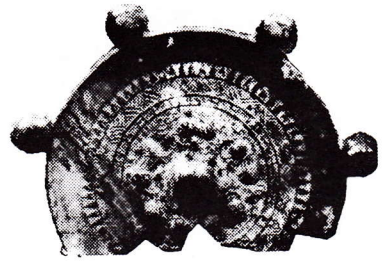


# 文化財 やまと

大和町文化財保護協会発行



七 鈴 五 獸 鏡

## 創立四〇周年を

## 大きく発展する年にしよう

会 長 佐 藤 光 一

本会初代会長故野田直治氏は、本紙創刊号に次のように述べておられる。

―大和村の村民憲章第一項に、「つねに学び文化の高い村を作りましょう」とあるのは、村民の向かうべきところを端的に示したもので、たいへん深い意味を持っていると思います。

近年、村民センターが建設されてから、ここを中心として、各種の文化活動がまるで堰を切った洪水のような勢いで活発になり、事実上の文化運動とも云うべき盛況を呈しているのは、まことに慶賀すべきことで、まさに村民憲章の趣旨を活かしたものといえましよう。

文化財保護を旗印として、当会が発足したとき、期せずして多数の方々のご参加が得られたのも、そうした文化運動の一環

と見ることが出来、文化財に対する理解と関心が深まった証拠と思われる。これは喜ぶべきことであって、こうした運動は今後ますますひろめていただきたいものです。

その後、私たちは初心を忘れず、眠っている文化財の発掘、村史・町史の編集等への献身的な奉仕とともに、会員相互の親睦、奉仕活動、研修等々たゆまない努力を重ねてきた。

周年記念事業のほか、東海北陸道開通記念など、文化財の展示にも努めてきた。

そんな中、平成一三年(二〇〇一)には本会結成三十周年の記念事業として、CD-ROM「古今伝授の里・大和町の文化財」を発行した。これは平成七年発行の図録「大和町の文化財」を底本に、その後指定された文

化財も追加し、解説を拡充したもので、大和町のホームページにも載せていただいた。それは一人でも多くの人たち、とくに後に続く若い世代にも見てもらって、文化財への理解を深めてもらいたいという願いをも込めたものであった。

来年度は創立四〇周年の記念の年を迎える。記念事業として、地味でも会員一人一人が汗を流し、自分たちの力で出来る範囲内で、有意義なことを実施することとする。

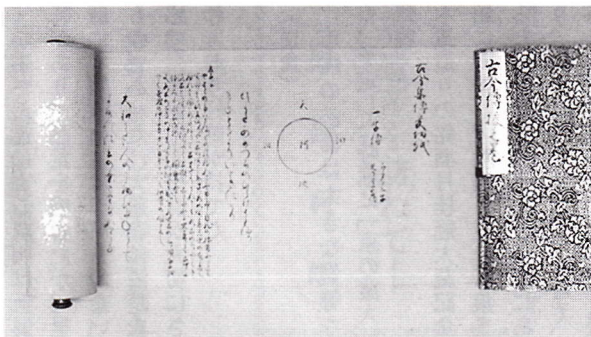
①まず、今年度は役員が、町内の文化財について、所在場所、状態・状況を確認するために、町内文化財視察・研修を行う。

②町内の文化財標識の痛みが激しいので、昨年度からの継続でアルミ製の標柱に更新する(実質一五本)。本協会の活動の一端を周知させようというねらいもある。

③東氏の文化は郡上市の文化の背骨を形成しているという見地立ち、東家古今伝授書(写本)、東家古今伝授並稽古方、東家十三代集、自素伝宗祇へ免許の歌、常縁集(写本)、等々七四件一

〇八点に及ぶ東家文書のうち、古今伝授及び東常縁に関するものをデジタル化し、誰でも手軽に・自由に閲覧できるようにする。そして、今後さらに注釈・解説を加えなどすることにより、発展的に活用できる基礎資料とすることを旨とする。

これが本協会として「古今伝授の里」への大きな貢献と信じ



東家資料  
古今伝授の巻

付記—大和町が東家資料の寄贈を受けるに至った経緯—

当時横浜市神奈川区在住の、東家二七代の当主故東胤駿（と）うの・たねたけ）氏は小田原市立図書館の河野館長と親交があったことから、家伝の資料の安全な保管を同図書館へ依頼していた。

昭和五三年（一九七八）大和村発行『大和村史料編』に文書の一部を収録したのが縁となつて、昭和六二年（一九八七）胤駿氏と大和町が「東家所蔵歴史資料等貸借契約書」を交わし、東家資料を大和町歴史民俗資料館の収蔵庫に保管・活用してきた。

さらに胤駿氏は、先祖が永年にわたり当地を領知していたことと、自宅に置くよりは、大和町で収蔵・管理した方が良くと判断して、平成六年（二〇一四）五月大和町と「東氏歴史資料寄贈契約書」を交わし、東家資料は大和町が所有することとなった。

東家資料の寄贈を受け「古今伝授の里—大和町」は名実ともに充実した。大和町教育委員会はこちらの資料を平成九年（二〇一七）一月二九日に重要文化財に指定した。

## 秋の日帰り研修

—京都の社寺別展を楽しむ—

研修部会長 滝 日 一 正

深みゆく秋、好天に恵まれた一月四日、歴史的観光都市京都の社寺拝観と文化財視察を行った。何時訪れても風情ある京都、紅葉の秋には今一歩であったが、先ずは、総勢三九名の多数のご参加の頂きまして無事終わることができましたことを感謝申し上げます。

（車窓あれこれ）

各地を繋ぐ国道と高速道が整備され、生活の利便さに感謝すべきであるが、旅行に当たつての最大の敵は道路の渋滞である。春と秋の京都は休日も平日も安心できない。高速を降りるとすぐに渋滞に遭遇した。予定の視察場所への到着時間、昼食の時間が不安の種となったが、「渋滞の功罪」とも言うべきか、普段は通過のみとなる、「日時計

の石碑」（天智天皇考案）、をはじめ、刑場跡地から発掘された「南無阿弥陀仏の碑」、「坂本竜馬縁のはたご」（寺田屋）など、道路脇に位置する遺跡、伝説を耳に、ゆっくり眺めながらの内観光ができた。観光バスゆえに勘考（近道）をしたとのこと（笑い）である。大きなストレスが溜ることなく渋滞を抜けることができた。しかし、最初の訪問場所の大蓮寺は、狭い街路地に位置し、初心者には分かりにくく、右往左往した後ようやく到着した。

（大蓮寺の拝観）

本堂正面に安置された「阿弥陀如来像」、左右の「千手観音」と不動明王」と側面に安置された「薬師如来、十一面観音菩薩、夜叉神明王」を真近かに拝観し

ながら、ボランティア活動の一環として従事している京都市内の大学生の説明を受けた。

阿弥陀如来は「お産の苦しみを救う」仏様とのこと。併せて、「走り坊さん」の伝説がある。身長一四三センチで足腰の強い坊さんがおられて、安産を願う妊婦さんに一日に六〇キロを掛けめぐりお守りを届けたとのことである。女性の方に信仰が厚

く、予定した時刻に「京の蔵人」到着

の足腰をお護り頂ける「走り坊さん」のお守り札がメインと見受けられた。学生さん達による説明は新鮮味があり、熱意を感じたが、早口にて短時間には理解しがたいものであった。大蓮寺は清楚な感で、多くの文化財が大切にされており好感が持てた。

（昼食）

市内の渋滞は大きな影響なく、予定した時刻に「京の蔵人」到着

木造造りの銘酒月桂冠大蔵記念館に隣接し、絵描きさんも集まるといった景観豊かな場所であり、女将の献立の説明をうけて、美味で体に優しい豆腐料理を堪能した。

（法然院の視察）

昼食場所を一二時三〇分出发、市内観光しながら銀閣寺駐車場に到着。

西田幾多郎（哲学者）が歩いたことで名づけられた「哲学の道」を歩いた。

バスから解放され、琵琶湖疏水の流れを見て、身体に受ける川



大蓮寺本堂

風が心地よい。

数百歩のみちのりを散策し、山道坂道を上がると法然院の山門



法然院山門にて

に到着した。

(山門にて集合写真撮影)

山門をくぐると中庭が広がる。緑葉樹の中に白砂が映える

「白砂壇」にて身を清め、本堂・方丈庭園、桃の間襖絵、講堂の順に視察した。後で三脚使用禁止に気付く。本堂は、ジャバラ

天井とのことで湾曲しており、仏像は阿弥陀三尊形式で祀られ、阿弥陀如来座像は寄木造り

とこのことで特徴が見られた。方

丈庭園は椿の緑と水が絶えたこ

とがないと言われる池が調和し、心落ちつくものであった。講堂では、法然院貫主による法

然上人の歴史が語られていた。法然は八歳の時父親が殺される不幸に出会い坊さんとなつた。一三歳から四三歳まで比叡

山で修業。阿弥陀様の本願念仏の教えに出会い、「人間は損得で

生きる、善悪で生きているのではない。その場の状況で人をも

殺す。善人でも悪人でもない。念仏とは、人間の計り知れない

命に目覚めたときに、信じて阿弥陀様にお願いをする言葉である、修業ではない、

行いであると説き、功德を積まれた。」とのことである。法然上人の人間観

の一部を、私自身初めて知ることとなった。視察時間が迫るので途中にて講堂を退場した。

(大徳寺本坊)

今回最後の視察箇所

で、三時ころ到着した。名僧、戦国武将等の塔頭

寺院が林立。境内の規模

の大きさに圧倒される。

どこもかしこも特別公開の真

ただ中で、迷いながら大徳寺

に到着、勅使門、前庭と唐門、

方丈襖絵を拝観した。白砂利を敷き詰めた前庭の盛観さと唐門

の豪華さはさすがである。しかし、唐門は近くに寄れず、細かい彫刻が見えないのが残念である。また、襖絵も部屋全体が暗

く見えづらい。説明にあつても事務的であり、国宝管理とはこうしたものかもしれないが、観光待遇において

期待はずれの思いが残った。



大徳寺山門

(終りに)

今回は、その道のプロ(バスガイド)も初めてとの場所、どうなる事かと心配しましたが、普段は見れない、特別公開の文化財に出会うことができました。数百年の時を超え、空間を

超えて語り継がれる、建物、庭園、襖絵、仏像等の歴史文化において、日本人の感性の豊さ

には、表情や動作の一つ一つに

意味があり、独特な信仰が息づ

いていることを知りました。私自身も仏教徒の一人であるが、これを機に、なおざりがちな信仰心も養いたいものである。視察場所への行程において、いきつ、もどりつ、珍道中の場面も

ありましたが、皆様のご協力のお陰をもちまして、秋の研修会を無事終わることができました。心から深く感謝を申し上げます。ありがとうございます。

## 春の一泊研修

—和歌山・奈良の世界遺産を訪ねて—

河合利雄

恒例の宿泊研修は四月八日であった。

(木)・九日(金)に実施され 紀三井寺

た。当日は幸い好天に恵まれたものの、朝の花冷えは厳しかった。予定通り七時に農協大和支

店を出発し、車は途中の渋滞もなく、車窓に満開の桜を映し出し、三十一名は無事第一の見学

途中、休みながら、桜の名所、地に到着した。十一時三〇分頃

吉野山桜に心癒され、ようやく全員が登りきることができた。この寺は、救世観音宗の寺として、十一面観音を本尊とし、西国三十三所のうち二番札所となっている。うらかな和歌浦の眺望がすばらしかった。



紀三井寺楼門

紀三井寺に別れを告げ、湯浅御坊道路を経て、第二の目的寺院である道成寺へと向かった。

### 道成寺

この寺は、和歌山県に現存する最古の寺である。大宝元年(七〇一年)の創建であり、文化財の宝庫ともいえる国宝や重要文化財が保存されており、平安時代の多数の諸仏が安置されていた。とりわけ、宝佛殿のカヤの

一木造りのご本尊千手観音と日光菩薩、月光菩薩のヒノキの一木造りの国宝には圧倒され、拝顔せずにはいられなかった。

この寺は、能や歌舞伎、浄瑠璃の題材として名高い「娘道成寺」として、「安珍・清姫物語」

の悲恋物語で有名である。従って、これを演ぜられた多くの有名な舞台衣装の写真が奉納されている。また、縁起堂では「道成寺縁起」絵解き説法が行われ、大変おもしろく、みんな興味深く聞き入っていた。

白浜温泉ホテル三楽荘

熱海、別府と並ぶ三名泉の一つの白浜温泉。白い砂浜、青い

おだやかな海に面したホテル三楽荘。七階での宿泊、名泉にひたり旅の疲れをとる。二時間にもわたる参加者の夜の交流会の盛り上がりの中、白浜の夜は更けてゆき、時を忘れての楽しさの中で床についた。

翌日、朝のバイキングに満足し、一行は八時にホテルを後にし、車中の人となる。途中、「白浜とれとれ市場」でショッピングをした後、ひたすら世界遺産、国立公園吉野山を目指して車を

走らせること四時間、昼過ぎにようやく目的地に着いた。狭い山道をさすがプロの運転手と感心しながらの道中であった。

下千本、中千本、奥千本とい

われる吉野千本桜。好天に恵まれ満開ということで、平日なのに観光バスが一日でのべ三〇〇台、それに自家用車、ケーブルなどでの来山者で、狭い参道は人で埋まり、ぼんやりしていると友を見失ってしまいたいような大混雑であった。人疲れの末、ようやく昼食場にたどり着き休憩、食事で元氣を取り戻し、金峰山に向かった。

金峰山寺・蔵王堂

金峰山寺の本堂、蔵王堂は重層入母屋造りで、椽皮葺き、高さ三十四メートル、四方三十六

メートル、安土桃山時代に建立された大きなお堂で、国宝とされている。本尊金剛蔵王権現は四百数十年にわたり、鎮座されている日本最大の秘仏とされている。

三尊は全身ごとく悪魔を払う怒りの形相をしているが、それぞれ、釈迦如来、千手観音菩薩、弥勒菩薩を本来の姿とす



金峰山寺蔵王堂

る変化身で、過去、現在、未来の三世にわたって私たちを守ってくださる守護仏であるといわれている。

今回は、平城遷都千三百年を記念して、九月一日より十二月九日までの百日間、特別にご開帳される。

解説者の吹かれた山伏のホラ貝の音が、堂内に響き渡り、霊山を渡り歩く山伏の連絡の姿、ホラ貝が想像され心に残った。

吉水神社

吉野修験宗の僧坊とされている



吉水神社

た所。書院は日本住宅の源流、初期書院造りの代表的傑作といわれるだけあって、周りの風景にマッチした趣深い静かなたたずまいに感じられた。後醍醐天皇の玉座、源義経・静御前の間、豊臣秀吉花見の本陣等、吉野文化を物語る殿堂として、重要文化財、秘宝の歴史的品々の宝庫の価値が大きい。

特に、狩野派の有名な絵師達が競って画いたふすま絵や障壁画には驚かされた。「一日千本」といわれる全山山桜のすばらしい眺望、吉野川に落ちて流れる桜花を食べるといって「さくら鮎」、国立公園吉野は、役行者が蔵王権現のお像を、桜の木で刻んだことから、桜が

保護猷木されたことがその始まりといわれる。

桜を愛する日本人の心を満喫

するチャンスを与えられたことに感謝、堪能し、吉野を後にして、一路故郷への岐路を急いだ。

## ふるさとを見直そう

（先ず訪ねることから始めよう）

本 川 喜代士

ゴールデンウィークを迎え、ようやく春の温かさが感じられる様になりましたが、零度近い寒波が日本の上空に南下して来て、急に冬の寒さが舞い戻ったり、明らかに例年とは異なる気候です。しかもそれは人間社会の営みを反映して急激な変化をもたらすような、日本の四季を歪める様な、そんな不安を感じます。不安は気候だけではなく、ギリシャ、カナダ、タイ、韓国、それに宮崎からも押し寄せてきます。

そんな中で上海万博が始まりました、今年我が国では色々な記念の年が多く、奈良では平城遷都1300年、等伯没後40

0年、北斎生誕250年、東京では歌舞伎座が約60年の幕を閉じました。今鳩山内閣が苦慮している普天間基地、沖縄が返還されて38年、万博と言われて我々に一番馴染みなのは大阪万博、それが丁度40年前の出来事でした。私達の和町文化財保護協会も、来年40周年を迎えるということで、大和町の文化財の標識を見て回る事になりました。目立たない仕事ではありませんが、以下はその見聞記です。

先ず町の一歩南、場皿から始めました。戦国時代、長良川沿いの敵に備えた木越城では大和

の入り口で、遠藤一族が睨みを利かせていた様です。ここにはカワシンジユガイの生息地がありました。伊勢だとか御木本だとか海の真珠は有名ですが、川にシンジュガイがいるなんて初めて知りました。盗獲が簡単に行われる今の世の中、標識化していいのかどうか？ 密かな周知でいいのかな？。水の流れば清らかで、釣り宿「清流」の養殖鯉が元気に泳いでおります。木越城跡地は20、30分の格好の山の散歩道、千代と一豊の立派な掲示板が駐車場に建てられておりました。料理旅館「金松館」が建てたもので、私の知り合いが数年前、曾祖母の米寿の祝いに子孫一族40数人を招いた所と記憶しております。

町の南の砦、木越城は「金松館」が守もつてくれている、そんな感じでした。北に向かい福田の集落を抜けると、福田古墳跡があります。東海北陸道路沿いにあり、一段高い位置にある標識からの眺めは、昔の人にはどう映るのでしょうか？ 二車線化された高速道路は休日にはしばしば渋滞、

サービスエリアは結構繁盛している様です。インターの入り口には七代天神の鳥居杉、この杉全体を画面に入れるにはかなり離れて撮らなければなりません。七代天神には他に、神楽踊りと狛犬の標識、目の前の高台は古今伝授の郷運動公園、照明灯が建てられ、夜には時々、こうこうと昼間のような明るさです。県道52号線を北に名皿部の外の白山神社。ここも二本のケヤキと本殿、狛犬が文化財。



名皿部白山神社本殿

200年以上も建物に破損がないのだそうです。ケヤキは二本とも30以上、狛犬は他と同様、秘蔵されて居ります。雲行きが怪しかった丁度この頃、3月も末だというのに、雪が舞い落ちて来ました。積もる程ではないが、見通しは悪くなり、手袋が欲しい程でした。

更に北上して万場に、モミジの南宮神社。広い境内にモミジがポツンと置かれている様な淋しい境内でした、2005年9月の台風で二股の幹の一方が無惨にも折られ、痛ましい姿になつていますが、関係者の手厚い保護を受けています。この神社には時代物の花火の筒が保管されている、そんな話でした。

神社で本殿が指定文化財となつて居るのは明建神社とここだけ、何故か？ 安永6年建立で

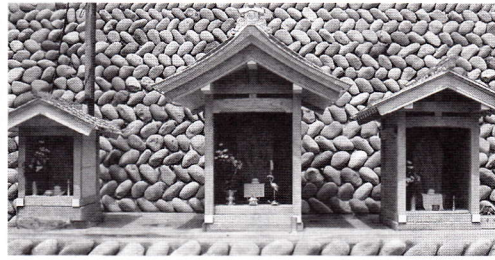
今度は156号線を南下、阿千葉城跡入口。ここには宝暦義民傘連判状の立派な石碑が建てられておりました。国道の改修工事の付帯として費用は追加されたのですが、かなりしっかりした石碑でした。本会が設置した阿千葉城跡案内板が、小さいながら立派に見えました。阿千葉城跡への上り口の近く

から、白雲山観音堂へ車で行けるとの事。再訪して、是非もう一度行ってみたい所です。

156号線は雪を避けて、側溝、路ガタ等の工事中で、上剣を左に入ると、妙見清水の湧き口があります。あぜ道を上がっていくと、湧き口は広く縁取られ、多くの水藻が綺麗な水に揺れて居りました。近くで4、5人の人が廃屋を解体中で、傍らで焚きたき火が寒さを強調しているようでした。車の暖房の温かさにホッとさせられました。

少ない予算でも市は町の農道の改修だけは誠実で、きれいに整備された道を南下、大和温泉の裏に出ました。観音堂、白雲山への登り口でここも国の工事で立派な散策路に仕上げられて

おりました。三十三観音の一番如意輪観音と馬頭観音、不動明王が、お一人お一人が新しい祠

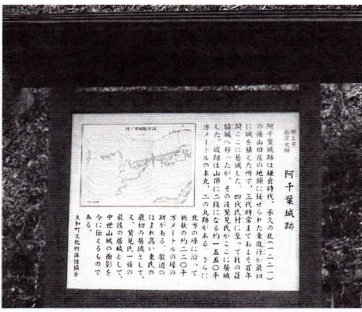


白雲山登り口の観音像ほか

通り了泉寺を抜けると市長宅です。簡単な距離は徒歩で済ませたり、部下に頼らず膨大な資料を手元に積んで答弁は一人で済ませたり、相変わらず評判のいい首長ですが、その市長宅を右折、あぜ道を行き道路を横断、川を渡った所が松尾城跡、ちょっと見晴らしの良い小高い丘ですが、最近ほとんど足を踏み入れた形跡はなく草茫茫々でした。直ぐ下で一本の桜が鮮やか

今は九本以上に分幹してます。鬱蒼とした森で、周りの木々に守られて、雪害の影響も少ない模様でした。道は更に奥、古道へ。大和町でただ一ヶ所、上水道が完備されていない場所だそう。道は八幡へ、但し工事は中断中で完成は未定。道の外れは西念寺、町指定の建物が多く、本堂の外に鐘堂、太鼓堂や、親鸞聖人像など、大和町にはあまり無いものが有りました。

最後は栗巢、領家のモミジ。これも今年の雪の影響がありましたが、あまり酷くはなかった模様。ただし一寸残念なのは、素晴らしいログハウスが建てられているのですが、その建物が木の邪魔なのです。秋には素敵な紅葉になるだろう、でもその木の美しさを撮るのは、かなり限定されるだろうと思いました。



阿千葉城跡案内板

に入られて、地元の方の毎朝お参りされているらしいお花の様子に気が持ちは清々しくさせてくれました。観音様とはいっても、キトラ古墳の様に彩色が残っている何とも親近感のある石仏です。温泉の帰りにでも是非御覧になって頂けたら、と思います。大和温泉やすぎ館は、何年目に入ったのでしょうか？道の駅も益々人気で、郡上市朝市連合が旬彩館を新設、さらに賑やかになりましたが、その裏を



口大間見松尾城跡

場所はがらりと変わって口神路の白山神社、六本ヒノキ。多くの木々の中でこの樹だけが存在感を増して居りました。泰澄にゆかりの600年以上の巨樹で、六本ヒノキとは云っても、

次は町の西端、上古道白山神社、これも狛犬が神社の社宝です。明建神社からフィールドミュージアム経由のこの道は、素晴らしい道路に改修され、まだ続行中で、八幡の戒仏、坪谷から、せせらぎ街道へ抜けるのでしょうか？少し偏った感想ですが、あまり通行量の多くない道の拡幅は急ぐ必要なし。事業仕訳で「縮延」そんなのではないのでしょうか？

最後にあと二ヶ所程回りまわした。先ず細川家のヒイラギ、樹高8mの木は円く刈り込まれたようで、秋になると真っ白い花が咲くらしい。細川家には背面に梵字が書かれた円空仏もあ



栗巢 領家のモミジ

以上が今回廻らせて頂いた所ですが、全体の半分もいっていないでしょう。ほとんどが私が初めての場所でしたが、その中で感じたことは、巨樹が多いこと、景観が素晴らしいことです。

歴史の長さと同規模の大きさです。そして見所はこれからが最適でしょう。山の緑が映える時季、水の流れが豊富な大和町。その殆どが眺めの素晴らしい事です。フィールドミュージアムの道は、架空線路も取り除かれ、眺望への配慮が特別になされて居ります。

私は毎年東氏館跡庭園の清掃作業に参加させて頂いて居りますが、未だ鑑賞する立場になつた事は有りません。清掃作業の途中でホッと小さな観音さんの石仏に出会つた時、遠く山並みを見て色々な緑の中に新鮮な若緑を見出した時、普段に聴く鳥の鳴き声を聞きながら綺麗な水の流れを眺める時、そんな何でもない小さなひとときが、都会では味わえない癒やしの瞬間なのです。

今年度から市長が提唱する「郡上学」の講義が始まりましたが、その一環として秋には白雲山ウォーキング等も行われます。

先ずは、自分で郡上の好きさを体験する事、そしてその好きさを皆に奨めることが出来たら、嬉しさは倍加していく事でしょう。

## 文芸欄



### 俳句

#### お取越

本 田 村 人

師匠寺お手つき檀家お取越  
万愚節裏書方便法身像  
かぞえ日や日誌にはさむメモ紙片  
啓蟄や石垣工法野面積み  
畦塗って棚田粧い競いおり



#### 桐の花

寛 明 代

伸びすぎてしまふ筈 旅二日  
義母百歳カーネーションに埋れけり  
山住みの少し遅れて更衣  
螢火を心に灯し戻りけり  
桐咲くやさらに青空濃くしたり



### 短歌

#### モネの睡蓮

井 俣 初 枝

セピア色のわが青春に遇いたくて  
夢の絵巻を紡いでみよう

秋天に高い高いをされし呪よ  
若き父親の四肢のびのびと

いちにちの空の青さよ向日葵の  
大き貌して日輪を追う

ドピッシーの海の演奏ときおりに  
指揮棒高く波を描きぬ

パレットの上に絵の具を散らすごと  
モネの睡蓮水を恋いおり

#### 薪能

渡 邊 千 恵

白妙の雪纏いたる里山に  
昔ありけり籠の煙

繁縷はこぶらにこのもかのもとさんざめく  
親族同胞うからすずめの親子

獅子頭、苔むす石に置かれたり  
獅子の枕は少し湿りて

夕されば神の午前の薪能・  
火入れの儀式今始まりぬ

暮なずむ空よぎりたるむさびの  
翔びに技ありぬばたまの風

#### 少年ナミの思い出

石 神 堯 生

筵むしろめぐりたつくりの頭拾い食む  
少年の眼差し怖おじけることなく

父の伐るはるきより出てし木の蛆うじを  
傍にしゃがみてつまみ食いおり

兵隊に行けば儲かると父は言う  
徴兵検査を二年後に控え

脚絆きゃだ巻き父に従い寒の山に  
木出しの少年数かれて死にたり

疲れ果て立ち止まる馬に鞭打った  
少年偲びつつ耕転機見ており

# 平成21年度 事業報告書

4月9日(木) 10(金) 平成21年度宿泊研修(参加者23名)

探訪地：第1日四国霊場(1番霊山寺、2番極楽寺、17番井戸寺)、鳴門市下イ  
ツ館 阿波踊り会館(徳島クラントホテル泊) 第2日藍染工芸館、阿波十郎兵衛  
屋敷(阿波人形浄瑠璃鑑賞)、鳴門公園、渦の道海上散歩。

20日(月) 「文化財やまと」編集委員会  
原稿依頼について

5月7日(木) 第1回執行部会(新年度への取り組み)

5月14日(木) 第1回役員会

平成20年度会務・決算報告について、平成21年度事業計画・  
予算案について、平成21年度総会について、会員拡大について、  
会費徴収について

6月9日(火) 県文化財保護協会総会(於：岐阜総合庁舎)

15日(月) 平成21年度総会

①平成20年度会務・決算報告

②役員改選

③平成21年度事業・予算の承認

会報「文化財やまと」発刊(発行部数350部)

講話：大和町文化財散歩 山田真人氏

18日(木) 第1回郡上市文化財保護協議会理事会

25日(木) 第2回役員会

10日(金) 東氏館跡庭園池泉清掃・阿千葉城跡清掃

26日(日) 七日祭・新能

8月7日(火) 第2回執行部会(郡上市協議会諸行事への参加について)

25日(火) 研修部会(秋季日帰り研修について)

9月1日(火) 郡上市文化財保護協議会市内文化財めぐり「寒水の掛踊」参加者23名

9日(火) 第2回郡上市文化財保護協議会理事会・予算について

11日(金) 第3回役員会研修部会(秋の日帰り研修その他について)

25日(金) 第3回役員会研修部会(秋の日帰り研修その他について)

29日(火) 郡上市文化財保護協議会「秋の文化財探訪」上越方面

10月9日(金) 第3回役員会

①平成21年度秋季日帰り研修の計画・実施について

②その他

11月4日(水) 平成21年度秋の日帰り研修 京都大連院、法然院、大徳寺、参加者39名

12月1日(金) 第3回執行部会

12日(土) 第4回役員会、事業・会計中間報告、懇親会

2月10日(土) 研修部会(平成22年度春期1泊研修計画)

25日(木) 役員会(平成22年度春期1泊研修、その他について)

3月2日(火) 郡上市文化財保護協議会第2回理事会

15日(月) 平成22年度諸計画について

25日(木) 事業部会(創立40周年記念事業について)

29日(日) 事業部会(文化財標柱調査・点検)

# 平成22年度 事業計画(案)

4月8日(木) 9(金)

平成22年度宿泊研修(参加者31名)

探訪地：第1日、紀三井寺、道成寺参詣(見学(宿泊白浜)  
第2日、金峰山寺参詣、吉野山センボンザクラ散策  
第1回郡上市文化財保護協議会理事会、「文化財ぐじょう」配布  
「文化財やまと」編集委員会 原稿依頼その他

5月16日(日) 第1回執行部会(新年度への取り組み)

6月3日(木) 第1回役員会

平成21年度会務・決算報告について、平成22年度事業計画・  
予算案について、平成22年度総会について、会費徴収について

6月15日(火) 県文化財保護協会総会(於：岐阜総合庁舎)

6月25日(金) 平成22年度総会

①平成21年度会務・決算報告

②平成22年度事業・予算の承認

会報「文化財やまと」発刊(発行部数300部)

講話：古今伝授の里づくり20年の歩み  
フィイルドミュージアム所長 金子徳彦氏

7月25日(日) 東氏館跡庭園池泉清掃・阿千葉城跡清掃

8月7日(土) 七日祭・新能

25日(水) 第2回執行部会

9月1日(水) 研修部会(秋季日帰り研修について)

11日(土) 第2回役員会(郡上市協議会諸行事への参加について)

21日(火) 役員研修(町内文化財視察)

29日(水) 郡上市文化財保護協議会「秋の文化財探訪」長野方面

10月5日(火) 第3回役員会

①平成21年度秋季日帰り研修の計画・実施について

②その他

10月10日(日) 郡上市文化財保護協議会市内文化財めぐり「和良町戸隠神社  
祭礼」見学

12月1日(水) 第3回執行部会

13日(月) 第4回役員会、事業・会計中間報告、懇親会

2月10日(木) 研修部会(平成22年度春期1泊研修計画)

3月8日(火) 役員会(平成23年度春期1泊研修、役員改選・新年度の諸計画  
について)

以下期日未定

平成22年度秋の日帰り研修

郡上市文化財保護協議会第2回理事会

事業部会(創立40周年記念事業について)

11月(日)



# 会員名簿(順不同)

## ■剣

## ■大間見

## ■古道

山下運平 <small>(顧問)</small>	八八―二四〇六	村井正藏	八八―二三三三	青地正男 <small>(理事)</small>	八八―二四四七	鷺見長子	八八―二〇二八	島崎増造 <small>(監事)</small>	八八―二二三六
籙 勝美 <small>(顧問)</small>	八八―二〇三一	大野一道 <small>(理事)</small>	八八―二三三〇	大井正明 <small>(理事)</small>	八八―二八九四	■神路		増田洋子	八八―四〇四一
日置敏明 <small>(顧問)</small>	八八―二二五四	大野紀子	八八―二三三〇	大井次子	八八―二八九四	白田宝徳	八八―三三三〇	寛 政之助 <small>(理事)</small>	八八―四〇三一
村瀬喜八	八八―二二二八	野田英志	八八―二二八五	桑田守夫	八八―二五一四	山田味代子	八八―二八四四	野口喜代子	八八―三〇八四
河合俊次	八八―二二四六	清水一作	八八―三〇八六	大中弘美	八八―三五〇六	山田敬子	八八―二三三六	■名血部	
加藤正恵	八八―二一〇七	池田充彦 <small>(理事)</small>	八八―三〇九〇	大中春子	八八―三五〇六	■牧		有代眞一 <small>(理事)</small>	八八―三七九一
加藤文蔵	八八―二八〇二	小野江 勉	八八―二七二五	鷺見三津子	八八―二六五一	金子政子	八八―三四二六	有代紀子	八八―三七九一
佐藤光一 <small>(会長)</small>	八八―三二〇一	松井賢雄 <small>(理事)</small>	八八―三九九一	小倉義明	八八―三三二四	滝日準一 <small>(監事)</small>	八八―二七〇五	有代和夫	八八―二二〇一
佐藤八重子	八八―三二〇一	藤代順行	八八―三〇六〇	小倉津油子	八八―三三二四	栗飯原明子	八八―二三六二	森下正則	八八―三四一三
田中和久	八八―二二〇〇	玉木吉郎	八八―三四一五	桑田洋一	八八―二四一四	日置貞一	八八―二六六二	佐尾千下り <small>(理事)</small>	八八―三五四四
高橋義一	八八―三七九二	小野木花子	八八―二七四七	桑田 博	八八―二二四一	遠藤千鶴子	八八―三六三七	■島	
河合 恒 <small>(理事)</small>	八八―二三五八	青木ユリ子	八八―三四七七	大中登志枝	八八―三六二四	遠藤周一	八八―二八九〇	森藤雅毅 <small>(理事)</small>	八八―二六八四
河合 尚	八八―二三〇四	坪井由佳子	八八―三九九〇	桑田 一秋	八八―二四一二	滝日敬子	八八―三四〇六	山田長次	八八―三六四八
加藤小次	八八―二三二九	■小間見				田口勇治 <small>(副会長)</small>	八八―三九五〇	田中 篤	八八―二七九二
森前とし子 <small>(理事)</small>	八八―三四七九	田代善一 <small>(理事)</small>	八八―三九六五	水野志づ子	八八―二六一〇	加藤一男	八八―二八七〇	奥田昌明	八八―二五二〇
岩崎扶美子	八八―三五二一	■万場		山内孝一 <small>(理事)</small>	八八―二六一六	本田欽一 <small>(理事)</small>	八八―三一六〇	奥田清子	八八―二五二〇
河合利雄 <small>(副会長)</small>	八八―三五二〇	畑中真澄	八八―二四四一	遠藤賢逸	八八―二二二一	野田嘉明	八八―三〇四三	奥田清子	八八―二五二〇
河合美弥子	八八―三五二〇	石神堯生	八八―二四一三	遠藤富貴子 <small>(理事)</small>	八八―二二二一	尾藤佐紀子	八八―二三三三	奥田清子	八八―二五二〇
山内 博	八八―三八八六	稲葉和巳	八八―二五〇三	矢野原吉夫	八八―二二二一	早瀬ふみ子	八八―三三二七	奥田清子	八八―二五二〇
山内悦子	八八―三八八六	寛 伸雄	八八―二五三二	渡辺千恵	八八―三三八〇	日置清子	八八―三三三六	奥田清子	八八―二五二〇
村瀬方彦	八八―二〇〇八	寛 明代	八八―二五三二	山内敏子	八八―二二二〇	斉藤武生	八八―三九二二	奥田清子	八八―二五二〇
小池祐二	八八―四〇六四	黒岩弘美	八八―二四五八	■河辺		滝日一正 <small>(理事)</small>	八八―三〇六四	奥田清子	八八―二五二〇
小池圭子	八八―四〇六四	井俣初枝	八八―二七五八	前田 孝 <small>(理事)</small>	八八―二二〇一	金子徳彦	八八―三〇六三	奥田清子	八八―二五二〇



◆◆◆ 平成21年度 決算報告書 ◆◆◆

◆◆◆ 平成22年度 予算書 ◆◆◆

(収入の部)

(単位：円)

項 目	決 算 額	摘 要
前年度繰越金	157,692	
会 費	247,000	
会 員 会 費	247,000	正会員2,000円×107名 家族会員1,000円×17名
助 成 金	52,534	郡上市
雑 収 入	28,490	預金利息他
合 計	485,716	

(収入の部)

(単位：円)

項 目	予 算 額	摘 要
前年度繰越金	1,922	
会 費	231,000	
会 員 会 費	231,000	正会員2,000円×107名 家族会員1,000円×17名
助 成 金	81,000	郡上市より
積立金解約	412,053	貯金利息 他
合 計	725,975	

(支出の部)

(単位：円)

項 目	決 算 額	摘 要
会 議 費	43,972	
総 会 費	37,018	資料費 講師料 印刷費 など
会 議 費	6,954	印刷費
事 業 費	349,988	
特 別 研 修 費	150,888	研修バス代 資料代 写真代など
会 報 発 行 費	65,100	300部
事 業 活 動 費	22,000	奉仕作業費 傷害保険
文 化 財 標 識	112,000	阿千葉城案内板 上剣妙見清水標識 4角注3本
事 務 局 費	39,834	
消 耗 品 費	15,296	接写用電球 パソコン関連 用品
通 信 費	24,538	連絡用ハガキ 印刷代 資料送付代
会費(県・市)	50,000	県:30,000 郡上市:20,000
合 計	483,794	

(支出の部)

(単位：円)

項 目	予 算 額	摘 要
会 議 費	30,000	
総 会 費	15,000	講師謝礼 他
会 議 費	15,000	理事会 役員会
事 業 費	604,395	
会 報 発 行 費	60,000	300部
事 業 活 動 費	25,000	文化財清掃奉仕作業燃料代 傷害保険
理 事 研 修 会	30,000	大和町内文化財研修
文 化 財 標 識	256,000	創立40周年記念事業
宿 泊 研 修 バス 代	173,395	
東 家 文 書 デ ジ タ ル 化	60,000	創立40周年記念事業 東家文書デジタル化準備費
事 務 局 費	40,000	
消 耗 品 費	20,000	プリンタインク 印刷用用紙 他
通 信 費	20,000	通信用はがき 他
会 費(県・市)	50,000	県:30,000 郡上市:20,000
予 備 費	1,580	
合 計	725,975	

収入 485,716 - 支出 483,794 = 1,922円

(1,922円は平成22年度へ繰り越し)

平成21年度の歳入・歳出経理について監査を行った結果、適正に処理されていました。

平成22年6月3日

監事 島崎増造



滝日準一



編集後記

先日、事業部の本川、細川さん佐藤会長とともに文化財の標識調査に同行した。十数カ所程度の視察であったが、なぜか、過ぎ去った昔への懐かしさがこみ上げてきた。ある程度日々の生活に満ち足りてくると、ふと空虚さにおそわれることがある。心の中に隙間が生じてきたからである。隙間を埋めるには心を耕すしかないのではと思う。文化財の標識には文化財愛護のシンボルマークがついている。何気なく見ている。はて、何かというたぐいのものか。これは日本建築の重要な要素である斗供(ときょう「組みもの」)のイメージを表している。神社や仏閣の屋根や柱を支えている「組みもの」を三つ重ねることにより、文化財という民族の遺産を「過去」・「現在」・「未来」に永遠に伝承していくことを象徴している。歩みが遅くなってきた年齢のまっただ中で、少し余裕をもって周囲を見てみようかなとも思う。

(ま)